

在宅介護支援住宅



えんどう りょうこ 議員

遠藤 高齢化が進む中、在宅介護支援住宅の推進において3点ほどいかがいたたい。①介護職員の確保。②廃校の利活用。③宅配給食サービス利用者の生活状況は把握しているのか。

保健福祉課長 ①生活の基盤となる高齢者の住まいについては、本人の状況や意思に基づいて選択できるよう、様々なニーズに対応可能な住まいの確保が重要だと考える。介護職員の確保においては、介護職員養成研修費用に対する町の助成事業に引き続き取り組んできた。②廃校になった校舎や体育館も含めての利用は、地元住民の皆さんの意見をふまえた上で、利用方針について決定していきたい。③一人暮らしの高齢者を中心に、訪問介護や在宅サービスを利用して



質問者の録画映像はこちら

廃校を利活用して
集合住宅を

答弁

地元の意見をふまえ
活用検討

遠藤 全国的にもホームヘルパーが集まらず、サービスの確保が難しいとのことだが町の状況はいかがか。

保健福祉課長 介護職員不足は改善していないが、町では一人でも多くの方が介護現場で働けるよう支援していきたい。



廃校の利活用例(旧桜中学校)

乗合タクシー



いしい かずまさ 議員



質問者の録画映像はこちら

自宅から目的地まで
快適な外出を

答弁

こまシェアで買物・病院
娯楽を充実

石井 町で行った65歳以上の高齢者や視覚障害者、妊婦を対象とした定額制の乗合タクシー「こまシェア」。月一人一万円の利用登録料で、昨年11月1日から今年の1月31日までで実証運行期間が終了した。

利用時間の問題や隣接市(例:郡山市)との連携、三春病院と星病院との連携を強めるという点をうかがう。

住民課長 国補助金を活用して実証運行を実施した「こまシェア」は、運行期間中総運行回数88回、申込者数4名、お試し利用者6名の延べ10名が利用した。利用者はひとり暮らしの高齢者が多く、病院や買物、入浴施設など多様な目的に利用された。「以前より外出する回数が増えた」「外出意欲が高まった」など、利用者からはおおむね良い評価をいただいた。運行事業者からは、「利用者からは満足頂けた



「こまシェア」タクシー

が周知PRが不足していた」「利用者の声などを参考に見直しを行い、継続して実施していきたい」など事後評価があった。
今後も、利用申込者に「みはるカード」のポイント付与や隣接市との連携した試験的運行などにも取り組み、利便性の向上と周知PRの強化に努める。